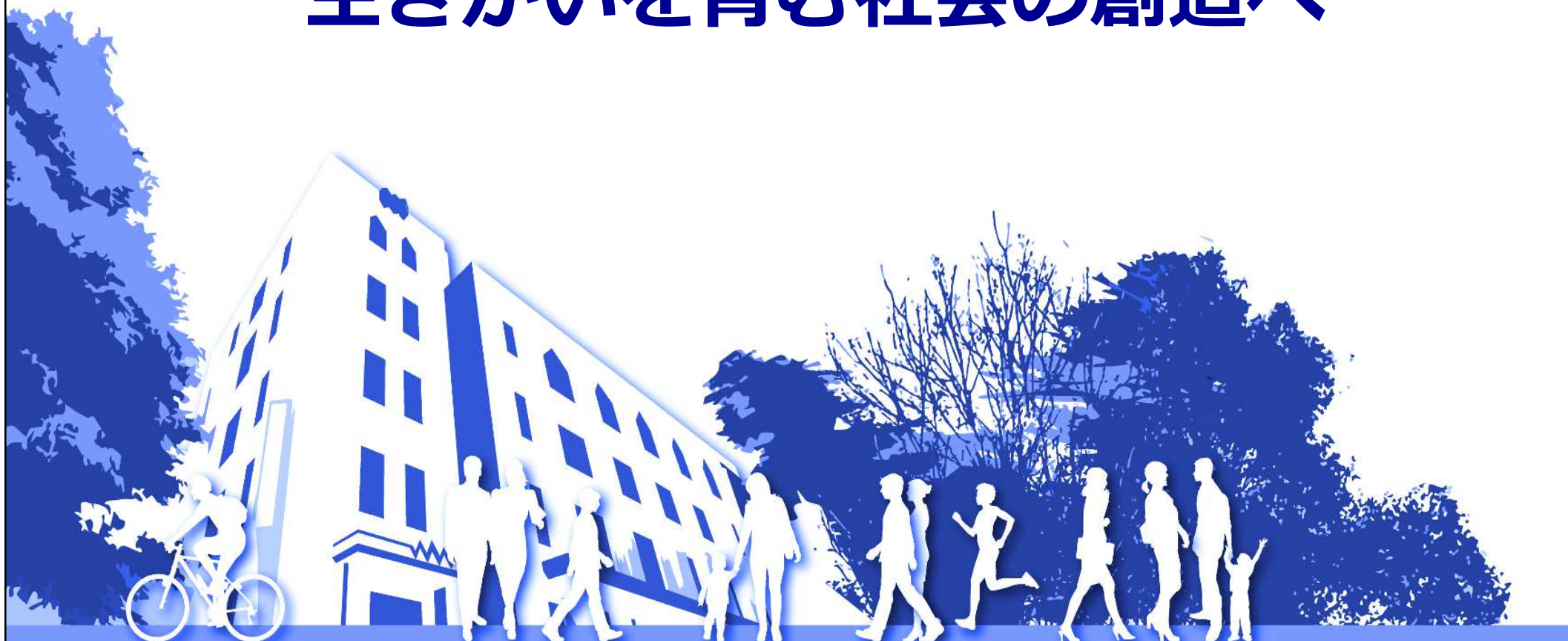


大阪大学の将来構想 生きがいを育む社会の創造へ



2024年8月

国立大学法人 大阪大学

指定国立大学法人構想の概要	P2
---------------------	----

全体サマリ	P3
-------------	----

指定国立大学法人構想の進捗状況について	P4～P38
---------------------------	--------

- 国際ベンチマークに対する進捗状況を踏まえた活動状況
- 設定した成果指標の推移と今後の見込み

1 研究力強化

4 国際協働

2 人材育成・獲得

5 ガバナンスの強化

3 社会との共創

6 財務基盤の強化

個別伝達事項へ対応状況について	P39～P41
-----------------------	---------

- 大阪大学におけるグローバル戦略と強力なガバナンス体制
- 大阪大学独自の自律的な内部質保証の仕組み
- 執行部のダイバーシティ

その他特記事項（今後の展開等について）	P42
---------------------------	-----

参考資料	P43
------------	-----

生きがいを育む社会の創造

個々人が社会で活躍できる寿命（社会寿命）を延伸させ、あらゆる世代がその多様性を生かすことで社会を支え、豊かで幸福な人生をすべての人が享受できる社会を創造する。

人類の大きな課題の解決

人類の脅威の克服によるレジリエントな社会の実現 新産業の創出による多様な人々の社会参画 激変する社会への人の適応力の向上

技術の革新

生涯学ぶ

豊かな知と心

心身の健康

持続可能な社会

多様性と
共生社会の実現

研究力強化

世界トップレベル研究拠点の形成

- ▶ 重点分野（生命医科学・共生知能・量子等）への集中投資
- ▶ 世界の優秀な研究者の獲得

感染症総合教育研究拠点

- ▶ 世界トップレベルの教育研究プラットフォームの構築
- ▶ 国内外の知と人材が結集

世界を先導する新研究領域

- ▶ 先導的学際研究機構を核とした異分野融合研究

IR×URA体制の整備による研究力強化支援

人材育成・獲得

様々な社会課題に果敢に挑戦する力強い人材を育成

Student Life-Cycle Supportシステムの構築・活用

- ▶ 教育・学習成果を可視化

STEAM教育、女性研究者の裾野拡大の取組

博士後期課程学生、若手研究者への支援充実

- ▶ 国内外の優秀な学生・若手研究者の獲得・育成

インターンシップ・オン・キャンパスの推進

- ▶ 産学共創によるキャリアサポート

社会との共創

共創機構を軸に、OUエコシステム（社会との好循環）による社会課題の解決や、新たな社会価値の創造を行う

- ▶ 大型共同研究の企画提案
- ▶ 社会課題探索段階からの産学共創プロジェクトの企画提案
- ▶ ベンチャー創出支援、系統的なアントレプレナー教育

質面キャンパスの活用

- ▶ 世界と地域を結ぶ共創活動の展開
- ▶ 国際人を育てる拠点の形成

国際協働

グローバルナレッジパートナーの拡大・連携の緊密化

- ▶ 世界的に卓越した研究拠点の形成

ASEANキャンパスの深化

- ▶ ASEAN地域のニーズに応える共同研究を推進し、「質の高い成長」に貢献
- ▶ ASEAN各国と連携した教育プログラムの充実、交流学生の増加

優秀な留学生のリクルート

ガバナンス改革

- 戦略会議の活用による各分野の強みの先鋭化
- D&Iの推進
 - ▶ 女性在职・上位職比率の向上
 - ▶ 国際ジョイントラボ拡大等、優秀な外国人研究者獲得の戦略を実行
- 場所や時間の制約を受けない教育・研究を支える情報基盤整備
- データを活用したエビデンスベースの大学経営を推進

財務基盤の強化

- 多様な財源獲得…共同研究収入、大学債、知財収入、寄附の拡充
- 戦略的な資源配分
- 教育研究活動・成果とコストの関係を情報発信
 - ▶ ステークホルダーからの理解と信頼の獲得

指定国立大学法人構想の進捗状況

- ✓ 「研究力強化」「人材獲得・育成」「社会との共創」「国際協働」「ガバナンス改革」「財務基盤の強化」の各分野にて、第4期中期目標期間における構想・設定した成果指標に対して、**順調に進捗**

- 『共同研究費受入額』及び『1,000万円以上の共同研究費受入額』をはじめとした「社会との共創」については、高い目標を掲げるなか、順調に推移している。
- 『若手教員割合』『留学生数』については、おおむね順調に進んでいるものの、第4期中期目標期間終了時の達成に向け、さらなるアクション強化を図っていく。

国際ベンチマークに対する進捗状況を踏まえた活動状況 ▶ 国際ベンチマークに関する詳細はP5、P16、P22を参照

- ✓ 国際ベンチマーク大学を参考にした取組を推進した結果、世界大学ランキングにおける産学連携関係スコアが大きく上昇
- ✓ FWCI、国際共著論文割合について、ベンチマーク大学の数値が停滞傾向のなか、大阪大学は着実に増加

大阪大学のベンチマーク校：

カリフォルニア大学バークレー校、エディンバラ大学、スイス連邦工科大学ローザンヌ校（EPFL）

今後のアクション ▶ 今後の展開に関する詳細はP42を参照

- ✓ ビジョンである「生きがいを育む社会の創造」の実現に向けて、さらなる諸活動の加速化を図っていく。

構想調書記載概要

構想

- ✓ 研究支援体制の強化と重点投資を通じて、国内外から優秀な研究者が集い、本学が牽引するような拠点形成や社会課題解決を目指す分野横断研究を推進する。

取組

- ✓ 大阪大学の強みを生かした世界トップレベル研究拠点の形成と新たな研究領域の開拓
- ✓ 人文社会科学分野のポテンシャルを生かした研究戦略の立案

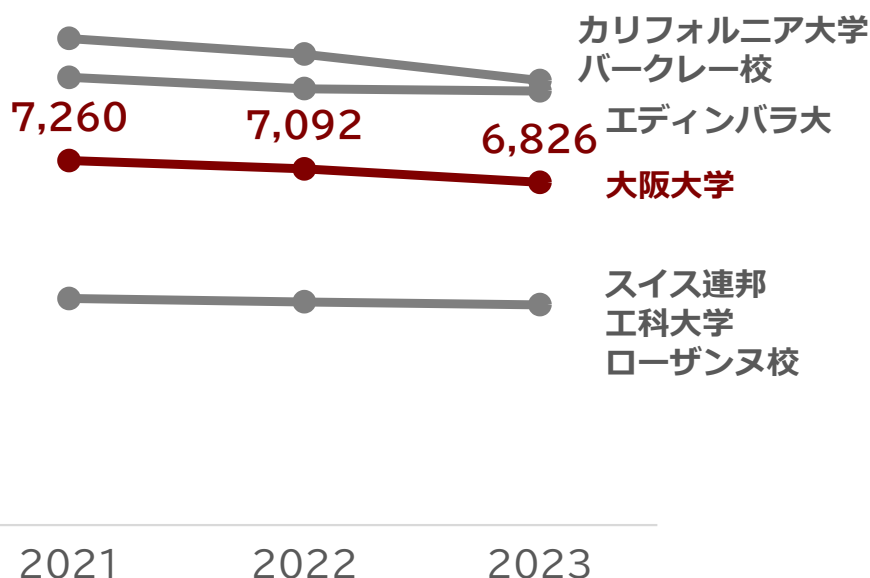
期待される効果

- ✓ 世界的研究拠点化、革新的イノベーション拠点形成に向けた活動を推進し、世界的課題の解決に貢献
- ✓ 人類共通の課題である感染症の制圧に大きく貢献、社会科学と医療の融合による感染症研究や科学的エビデンスに基づいた社会への科学情報の発信、政策提言
- ✓ 分野の垣根を超えた包括的研究により、現代社会の多様な課題解決に貢献

論文数から論文の質を重視する施策へ転換した結果、
本学のFWCIは上昇傾向に転じる。

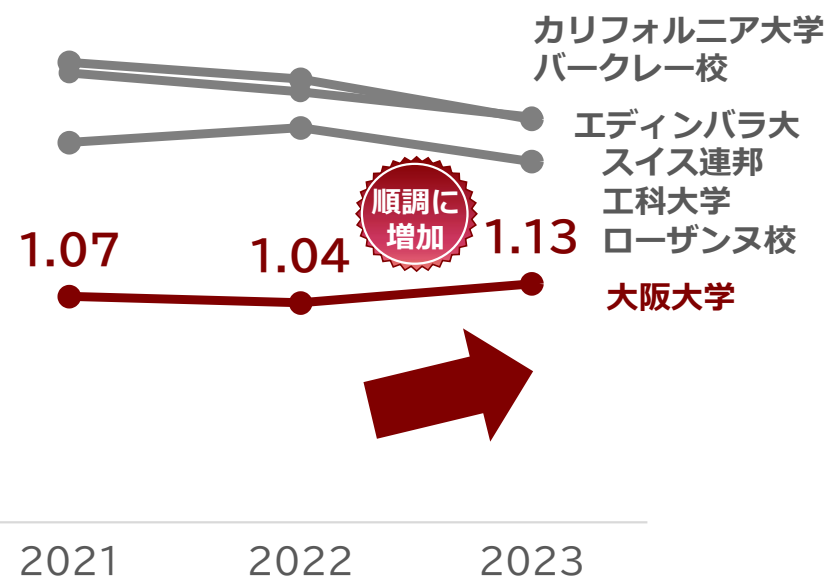
論文数 (報)

ベンチマーク校と同様に、
大阪大学も2021年以降減少傾向



FWCI

ベンチマーク校の2023年低下傾向
に対し、大阪大学は**2023年上昇に**
転じた。



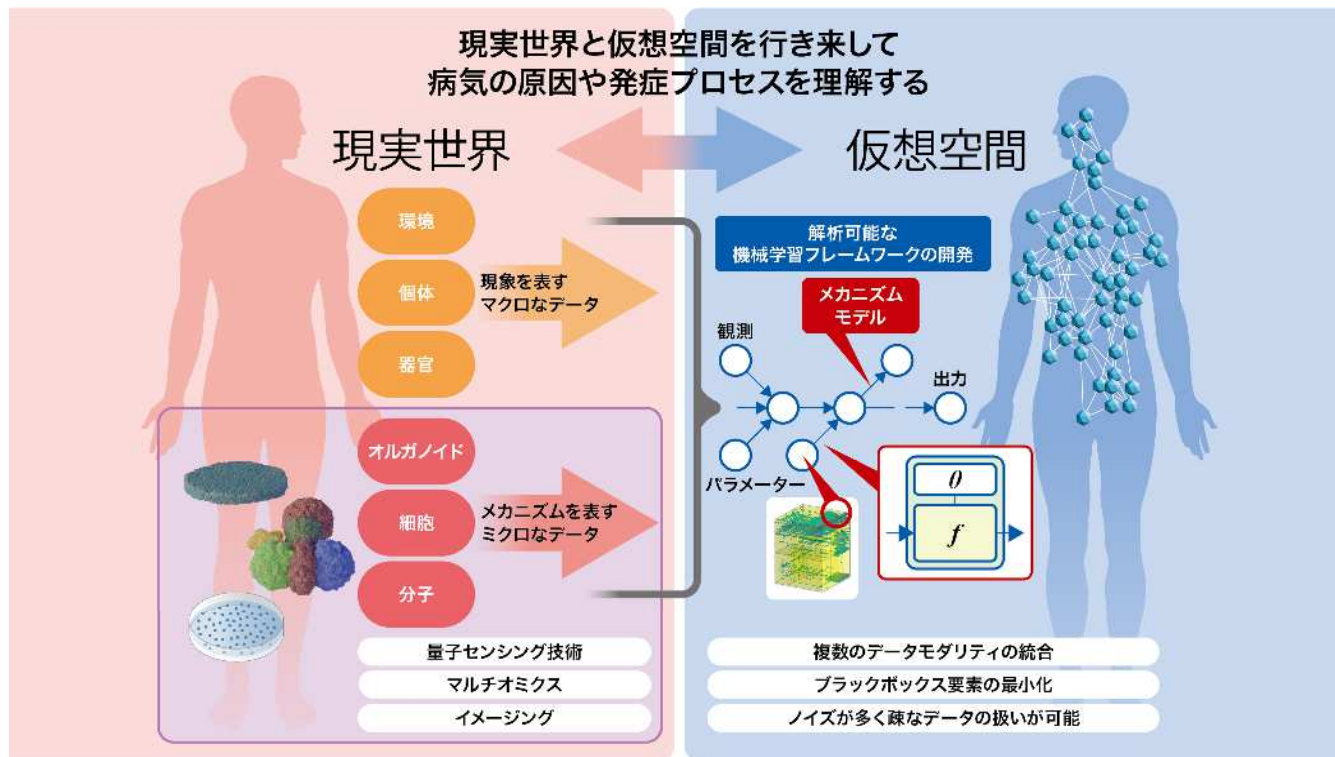
(出典) Data source: Scopus, Date last updated: 2024/6/24, Publication type: Articles, reviews and conference papers, Year range: 2021 to 2023

具体取組

オープンアクセス化の推進、国内外の機関と連携したトップレベル研究の推進、
有望研究領域への戦略的投資

世界トップレベル研究拠点の形成

- ✓ ヒューマン・メタバース疾患研究拠点（WPI-PRIME）が新たに世界トップレベル研究拠点プログラムに採択



世界トップレベル研究拠点
3件へ増加(2023)
(目標:2027年度終了時に5件程度)

ヒューマン・メタバース 疾患研究拠点 (WPI-PRIME)

メタバースを用いた医学研究で
人類の壮大な目標
「すべての病気の克服」に挑む。

「ヒューマン・オルガノイド生命科学」と「情報・数理科学」分野を世界で初めて融合させることにより、「ヒューマン・メタバース疾患学」を創成

国内外の研究機関・大学と連携して研究

- ヒューマン・メタバース疾患研究拠点のサテライトを国内外に設置
ブリティッシュコロンビア大学、メキシコ国立自治大学、理化学研究所光量子工学研究センター、NTT物性科学基礎研究所バイオメディカル情報科学研究センター
- 4つの海外研究機関と連携して、一人ひとりの体内で生じる病気の発症のプロセスを包括的かつ連続的に理解する新たな科学分野「ヒューマン・メタバース疾患学」研究を国際的に展開
シンシナティ小児病院医療センター、スタンフォード大学、アイルランド国立大学ダブリン校システムバイオロジー研究所、キュリー研究所

次の拠点の芽となる新たな研究領域を開拓

- ✓ 先導的学際研究機構にて卓越的研究を推進し、社会課題の解決を意識したイノベーションの創出に寄与

日本オープンイノベーション大賞
最高位「内閣総理大臣賞」

創薬サイエンス部門 大久保敬教授
安全な酸化剤による革新的な
酸化反応活性化制御技術の創出

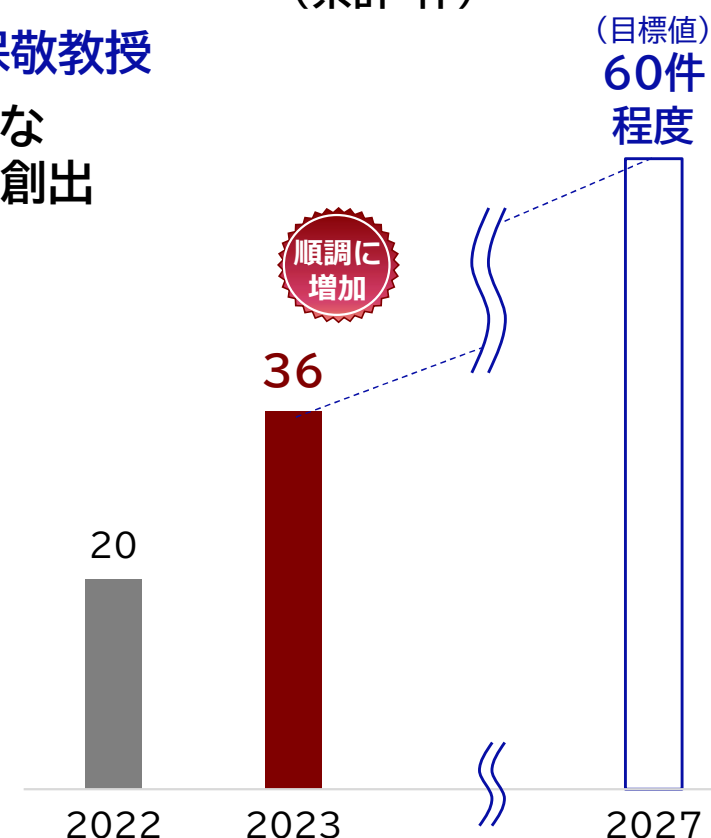
- ✓ 全学的IRと有機的に連動するURAにより重点分野の設定や拠点形成を支援

研究大学強化促進事業

事後評価
最高のS評価

- ✓ データビリティフロンティア機構にて学内研究者のマッチング、学際共創研究の発掘支援を実施

分野横断型の
新たな研究領域創成に係る
研究プロジェクト数
(累計・件)



世界最高水準の研究拠点形成と人材育成の展開

- ✓ 2021年4月から始動した感染症総合教育研究拠点において、**人文学・社会科学**（行動経済学、社会心理学）を含む関連部局が総力を結集し、**分野横断での基礎研究推進、社会への情報発信や政策提言**を実行
- ✓ 部局横断型の「**感染症学・免疫学**」学位プログラムを設立し、世界の感染症学・免疫学研究を先導する次世代リーダーを育成（2024年度10月より学生募集開始予定）



大阪大学・日本財団
感染症センターを
吹田キャンパスに
2025年2月竣工予定



大阪大学・日本財団感染症センター
イメージ・グラフィックス

- 基本デザイン・デザイン監修：安藤忠雄建築研究所
- 基本計画：大阪大学、明豊ファシリティワークス株式会社
- 設計・施工：大成建設・日建設計特定建設工事共同企業体（デザインビルド）

デジタルヒューマニティーズ研究やELSI研究を振興し、 新たな人文学・社会科学研究分野を創成

グローバル日本学教育研究拠点での 連携強化

- ✓ グローバル日本学教育研究拠点に、理工情報系諸部局との連携強化を目的とした「**デジタル日本学部門**」を新設
- ✓ 人文学・社会科学系の教育研究を**データ駆動型へと転換**を先導

グローバル日本学教育研究拠点での取組

- 2022年12月にキックオフ・イベントとして国際シンポジウム「『デジタル日本学』の可能性」を実施
- デジタルヒューマニティーズを主題とする研究交流ワークショップ、国際シンポジウムを開催

ELSI研究プロジェクト

- ✓ 社会技術共創研究センター（ELSIセンター）にて **ELSI（倫理的・法的・社会的課題）**に関する総合的な研究や実践的な研究を推進
- ✓ 経済界やアカデミアとも連携
- ✓ 2023年3月には生成AIをめぐるELSI論点をまとめたレポートを発行
- ✓ これに基づき、学生及び教職員を対象に生成AIについてのガイドラインを大阪大学で定めた。

経済界との連携 企業との共同研究等：

株式会社メルカリ、株式会社電通、
日本放送協会 放送技術研究所（NHK技研）、
日本電気株式会社（NEC）、
PwCコンサルティング合同会社、
株式会社リコー 等

構想調書記載概要

構想

- ✓ 社会課題に対応する能力を身につけ、個々の自己実現を図り、生き生きと力強く活躍し、新たな社会を創造できる知性あふれる人材を持続的に育成する教育環境を整備する。

取組

- ✓ 複眼的視点・俯瞰的視野を持つ高度専門人材の育成
- ✓ 学生への支援施策の立案と実施体制の整備
- ✓ 将来を担う若手研究者の雇用・育成

期待される効果

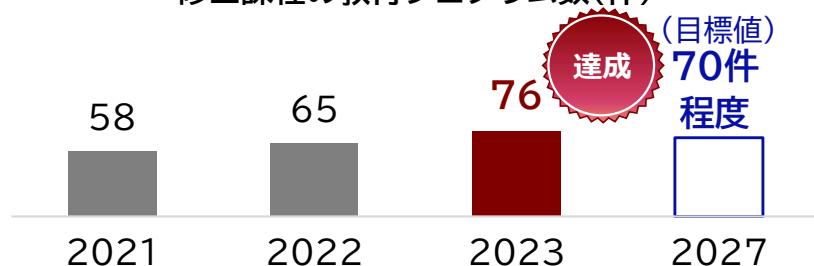
- ✓ 若手研究者への支援を充実させることで、学生に対しアカデミアにおける安定したキャリアパスを提示することが可能となり、研究者や博士後期課程への進学を志す学生の増加が期待でき、将来的な研究力強化につながる。
- ✓ 雇用環境を安定させることで、若手研究者が自らの真の問題意識に基づく挑戦的な研究に専念することを可能にし、新たな学問分野の開拓や、卓越した研究成果の創出が期待できる。

専門性の深化に加え、社会のイノベーション創出に貢献できる博士人材を育成

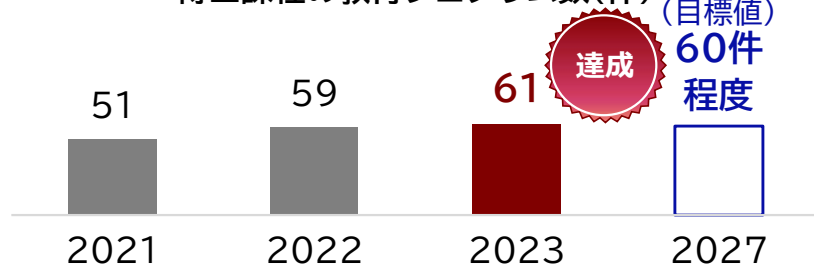
複眼的視点・俯瞰的視野を持つ人材を育成する DWAA※教育プログラム

- ✓ 専門性の探求だけでなく、双翼の方向性を持った様々な教育プログラムを体系化
- ✓ 大学院教育改革推進のため、2024年4月に学際大学院機構を設置

DWAAに関する
修士課程の教育プログラム数(件)



DWAAに関する
博士課程の教育プログラム数(件)



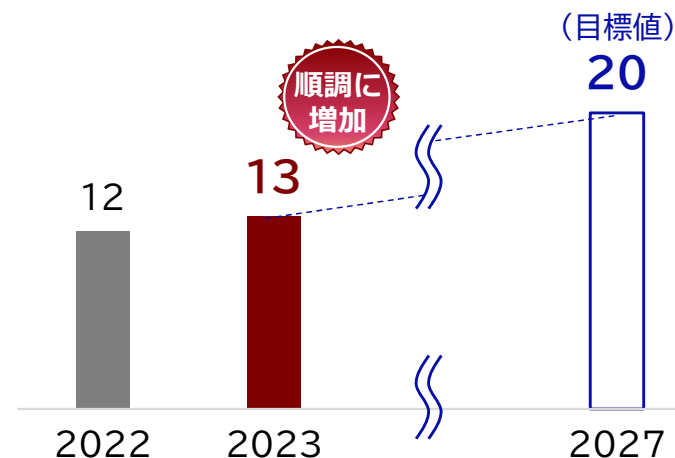
※DWAA (Double-Wing Academic Architecture)
大阪大学独自の「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム」を指す。詳細は参考資料 (P43) を参照

産学共創に基づく 大学院教育の新展開

- ✓ 学生が学内において長期間従事できる「インターンシップ・オン・キャンパス」を推進
- ✓ 企業・大学相互メリット型リカレント教育
本学の学生が、修士課程修了後に企業に入社、その後も引き続き博士課程で共同研究に従事しながら博士号が取得可能に

プログラム受講学生の満足度
85%へ上昇(2023)(目標:80%以上を維持)

インターンシップ・オン・キャンパス等を
導入した学位プログラム数(件)



博士後期課程学生の経済的支援を大幅に充実

- ✓ 科学技術イノベーション創出に向けた**大学フェローシップ創設事業**、**次世代研究者挑戦的研究プログラム**に採択
- ✓ 博士後期課程の適格者に対する授業料免除について、**100%免除**を実施

科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創出事業

2024年度支援例：

分野横断イノベーションを創造する情報人材育成フェローシップ

- ✓ **研究費** 年額50万円
- ✓ **研究専念支援金**（生活費相当額）

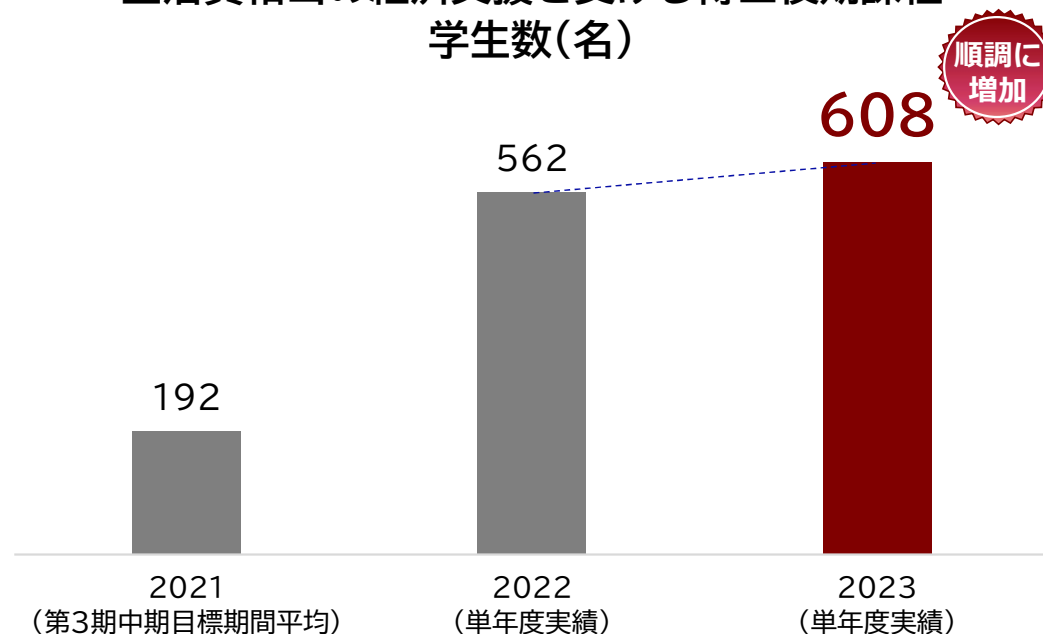
月額17万5千円を支援

次世代研究者挑戦的研究プログラム

- ✓ **研究費** 年額44万円
- ✓ **研究奨励費**（生活費相当額）

月額18万円を支援

生活費相当の経済支援を受ける博士後期課程
学生数(名)



各種取組で国際的に卓越した若手研究者の雇用・育成を促進

高等共創研究院

- ✓ 企業や各種団体の寄附金等を活用し、高等共創研究院において2023年度までに**延べ21名の国際的に卓越した若手研究者を雇用・育成**
- ✓ 一般財団法人 阪大微生物病研究会、ダイキン工業株式会社の支援により、第一段階をスタート
- ✓ 自己財源でダイバーシティも推進

先導的な学際研究を実施する
研究体を形成する「仕掛け」

SAKIGAKEクラブ

会員数153名まで拡大

- ✓ 若手研究者の自由な発想を基に、気鋭の若手が連携して融合研究プロジェクトを組成
- ✓ クラブメンバーの参画する研究拠点が**共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）**に採択され、その後本格型へ昇格（全学のCOI-NEXT採択数は国内最多）

住民と育む未来型インフラ創造拠点

- 若手研究者の自由な発想を地域のリアルな課題の解決へ
- 科学技術を社会実装し、過酷な環境でも命を預けることのできる技術を実現

R3年度
採択

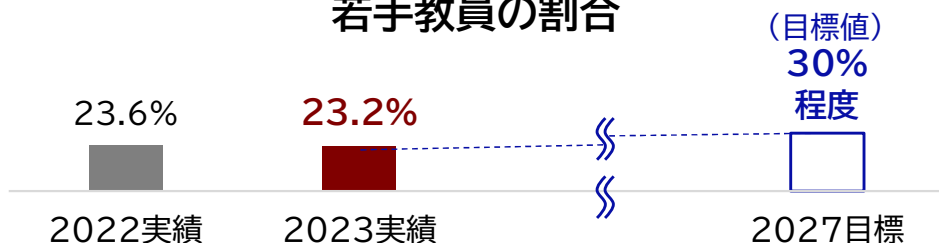
R5年度
本格型
昇格

若手研究者 海外派遣 プログラム

- ✓ 若手研究者8名について、オックスフォード大、ケンブリッジ大等を含む**5か国8大学への渡航費用を支援**（渡航期間約3か月～9か月）
- ✓ 受入研究者との新たな国際共同研究実施、**国際共著論文比率向上へ繋がっている。**

国際共著論文比率に関する取組はP22を参照

若手教員の割合



今後の若手支援の展開

- 教員ポスト管理を見直しし、2024年4月からポイント制により柔軟な人員管理を開始
- 並行して総長裁量ポスト等による若手研究者に対するポストを150名規模で配分を行い、若手研究者の雇用を全学的に推進予定

小中高生のSTEAM教育

- ✓ 大阪大学が全国を牽引して小中高生に対するSTEAM分野の進路選択を支援
- ✓ 全国に先駆けたグッドプラクティスと大きく評価



- 5年間の小中学生対象の学習・研究支援プログラム。大学の研究室に配属、自主研究
- 累計490人参加
(過去6年間で毎年平均40%超の女子生徒が参加)



- 世界最先端の科学技術にいち早く触れてみたいという意欲的な高校生向けのプログラム（累計1,414名参加）
- 「傑出した科学研究人材発見と早期育成」を目指す。学生を「教えて育てる」から、学生が自ら「学んで育つ」への発想転換

女子学生に対する 入学支援金制度

- ✓ 女性比率が低い分野において戦略的に女子学生のすそ野を拡大
- 民間企業等からの賛同のもと、女子学生への入学支援金制度を展開
- 理学部、工学部、基礎工学部に入学した優秀な**女子学生50名**に対して1名あたり20万円の入学支援金を支給
- 女子学生、保護者、高等学校の先生等の進路選択を後押し

入学支援金制度に
ご賛同いただいている企業



構想調書記載概要

構想

- ✓ 研究成果の社会実装を推進し、「知」「人材」「資金」の好循環を実現するため、産学共創のさらなる深化を推し進めるとともに、大学経営への持続的な資金供給を確保し、社会変革に貢献する基盤に投資できる体制を構築する。

取組

- ✓ 共創機構を軸とした社会との好循環の創出
- ✓ 箕面キャンパスを活用した社会との共創
- ✓ 社会のステークホルダーと協働したSDGs実現のための基盤整備

期待される効果

- ✓ 研究成果を社会実装・実践することで、新たな社会価値を創造するに止まらず、新たに生じる課題を基礎研究に活かす「OUエコシステム」の発展により、研究力の強化につなげるとともに、本学の国際的プレゼンスを高める。
- ✓ 知的財産の強化により、安定的な知的財産収入の確保につなげる。
- ✓ 大学発ベンチャー支援の対価として株式・新株予約権の取得を促進することで、財源の多様化・収入増加につなげる。
- ✓ 本学の25言語の強みを生かし、地域との共創によって「これからの100年も大阪に国際人を育てる」国際拠点を形成する。
- ✓ 本学のSDGsへの貢献をはじめとした社会にインパクトを与える活動の成果等に関して、ステークホルダーに対し積極的に情報を伝えていくことで、社会への説明責任を果たす。

国際ベンチマーク大学を参考にした取組を推進した結果、世界大学ランキングにおける産学連携関係スコアが大きく上昇

ベンチマーク校	項目	ベンチマーク校取組	大阪大学の活動状況
スイス連邦工科大学 ローザンヌ校	産学連携	社会との窓口を 一本化した産学 連携機構	✓ 人材育成等も含めた多面的・包括的な組織対組織の連携推進 ✓ 「未来社会共創コンソーシアム」にて社会課題探索段階からの産学共創プロジェクトを企画提案 ✓ UCバークレー発の世界的なスタートアップ・アクセラレーター「Berkeley SkyDeck」と連携 ✓ 大阪大学発スタートアップを創出し、グローバルに競争力を持ったスタートアップへと育成を目指す。
カリフォルニア大学 バークレー校			



THE世界大学ランキング

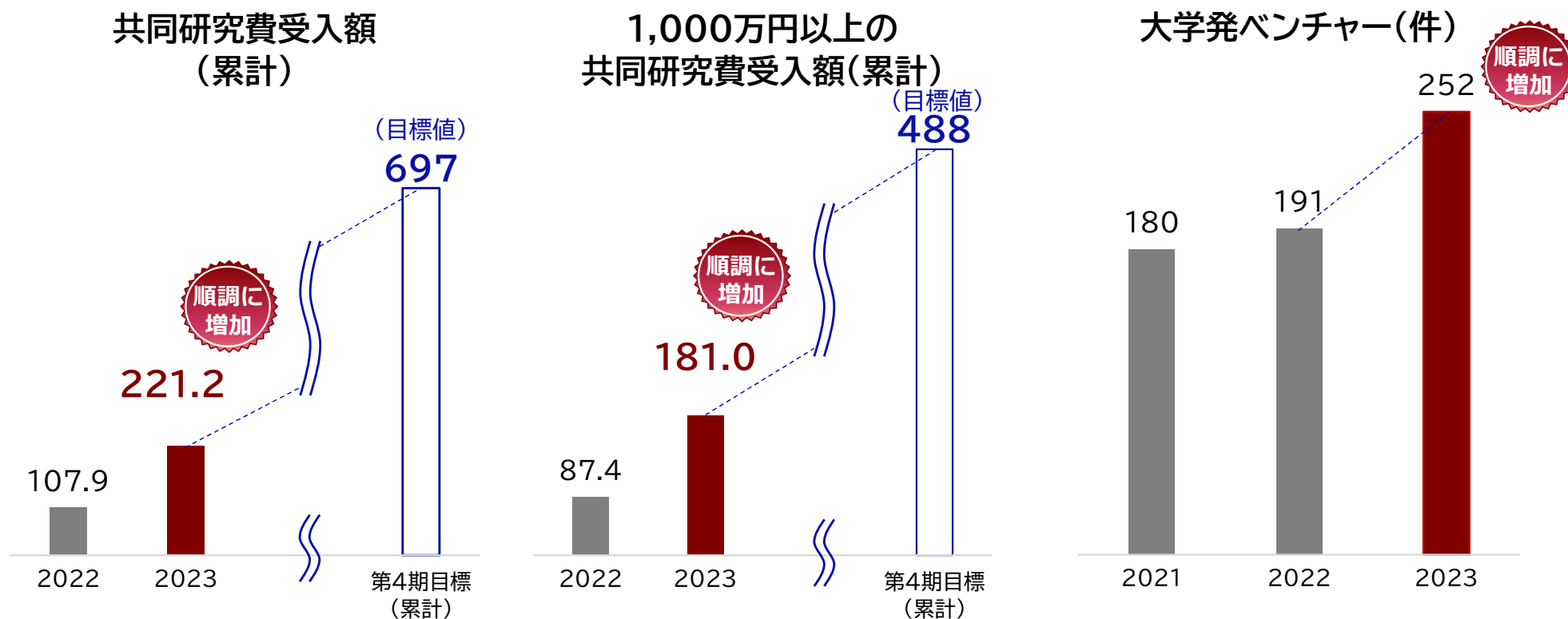
Industry income to academic staff スコア比較 (THE DataPointsより)

大学名	2022年	2024年	伸び
大阪大学	90.2	96.4	+6.2
エディンバラ大学	40.2	40.9	+0.7
スイス連邦工科大学 ローザンヌ校	75.0	71.7	-3.3
カリフォルニア大学 バークレー校	84.7	76.8	-7.9

**THE世界大学ランキング2024
Industry分野で
世界第1位**

THE世界大学ランキングにて
ベンチマーク校の産学共創関係の
スコアが微増または減少する中、
大阪大学は上昇

OUエコシステムによる知・人材・資金の好循環により、 大型の共同研究費受入れ、大学発ベンチャーは順調に拡大



- ✓ 共同研究費受入額、1,000万円以上の共同研究費受入額 **国内第2位※1**
- ✓ 大学発ベンチャー数 **前年度からの増加数全国第1位※2**

(出典)

※1 文部科学省「令和4年度大学等における産学連携等実施状況」にて第2位

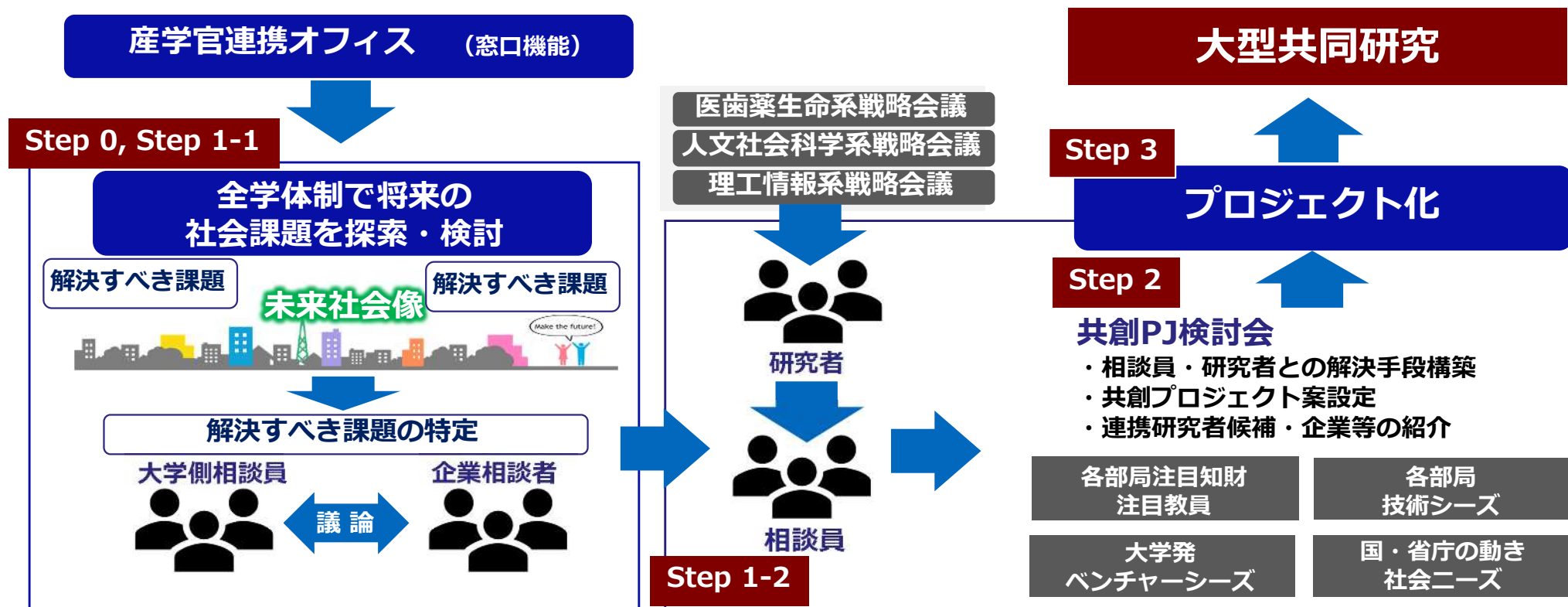
※2 経済産業省「令和5年度大学発ベンチャー実態等調査」にて前年度からの大学発ベンチャー増加数第1位

未来社会共創コンソーシアム

- ✓ 大阪大学と民間企業が将来解決すべき社会課題をともに探索し、**産学共創のさらなる深化とオープンイノベーションの拡大を図る仕組みを構築**

<実績>

- 2022年度までに**民間企業15社**とそれぞれ課題相談・課題検討を実施。うち**1社**は課題特定を経て、**産学共創プロジェクトの企画提案を実施**
- **1社**との課題検討等の成果が、既に設置されている**協働研究所の新たなテーマへ進展**



新駅開業により大阪都心部とのアクセスの飛躍的向上 多様なステークホルダーとの共創活動の可能性がより一層拡大

- ✓ 2024年3月23日北大阪急行延伸線開業に伴い、大阪大学箕面キャンパスから徒歩3分の場所に箕面船場阪大前駅が誕生
- ✓ 翌週3月30日には箕面船場まちづくり協議会、株式会社リクルートの共催により、**留学生と地域の人々がともに“多様性を思いきり楽しむ” イベント「No Border Fest in Minoh」を開催**



大阪・関西万博へ向けてステークホルダーとの協力を強化

大阪・関西万博テーマ 「いのち輝く未来社会のデザイン」

① 未来社会の構想



- ✓ 大阪大学は関西経済3団体とともに「いのち会議」を設立
- ✓ 事業推進協議会、事業実行委員会のもとに「市民部門」「国際部門」を置き、アクションパネル、ユースチームなどを展開

② 海外大学とのグローバルな共創

- ✓ 大阪・関西万博に向けた活動に合意する海外6大学※に加え、大阪大学が加盟する世界中の大学とのネットワークと連携し、先端の科学技術と人文学・社会科学の叡智を結集させた「いのち」をコアテーマとした共創活動を展開
- ✓ Health, Well-being, Sustainabilityという視点からいのちを捉え、食、都市、データ社会といった課題に対して、学問領域やセクターを超え議論や共同研究を推進し、具体的なアクションを提示

※海外6大学

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（英国）、上海交通大学（中国）、グローニンゲン大学（オランダ）、マヒドン大学（タイ）、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、カリフォルニア大学デービス校（米国）

③ 次代を担う若者や学生の参画

- ✓ 学生部会を発足して大阪・関西万博への大阪大学学生の参加を促し、「いのち輝く未来社会」を自発的にデザインする取組を支援

構想調書記載概要

構想

- ✓ 海外の有力大学との国際連携によりグローバル課題の解決を目指した共同プロジェクトを推進し、戦略的パートナーとの連携によって海外キャンパスを中心としたネットワークを構築・地域的な社会課題の解決に資する教育研究を展開する。

取組

- ✓ 海外の有力大学等との戦略的組織間連携（グローバルナレッジパートナー）による世界的に卓越した研究拠点の形成
- ✓ ASEANキャンパスの深化・広域化
- ✓ グローバル人材育成のための体制の充実

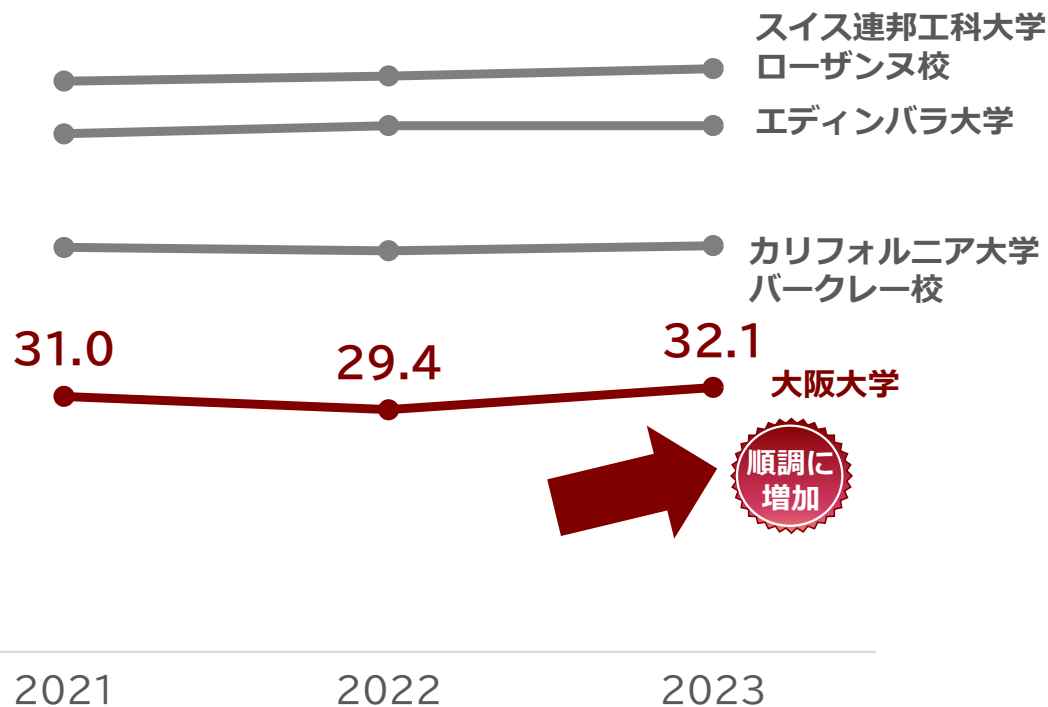
期待される効果

- ✓ 世界の有力大学との連携強化により、共同研究が促進され、本学の研究力向上に寄与する。
- ✓ 日本人学生の国際性の涵養及び大学のダイバーシティの向上に寄与する。
- ✓ 留学生の積極的な獲得・支援により、優秀な博士課程の学生や若手研究者の育成が期待できる。

戦略的な国際連携を推し進め、国際共著論文割合は着実に増加

国際共著論文割合 (%)

ベンチマーク校がほぼ横ばいの中、大阪大学は2023年に着実に増加



	① 2023	② 前2年 平均	①－② 差
スイス連邦工科大学 ローザンヌ校	70.8	69.6	1.2
エディンバラ大学	63.9	63.4	0.5
カリフォルニア大学 バークレー校	49.3	48.9	0.4
大阪大学	32.1	30.2	1.9

(出典) Data source: Scopus, Date last updated: 2024/6/24, Publication type: Articles, reviews and conference papers, Year range: 2021 to 2023

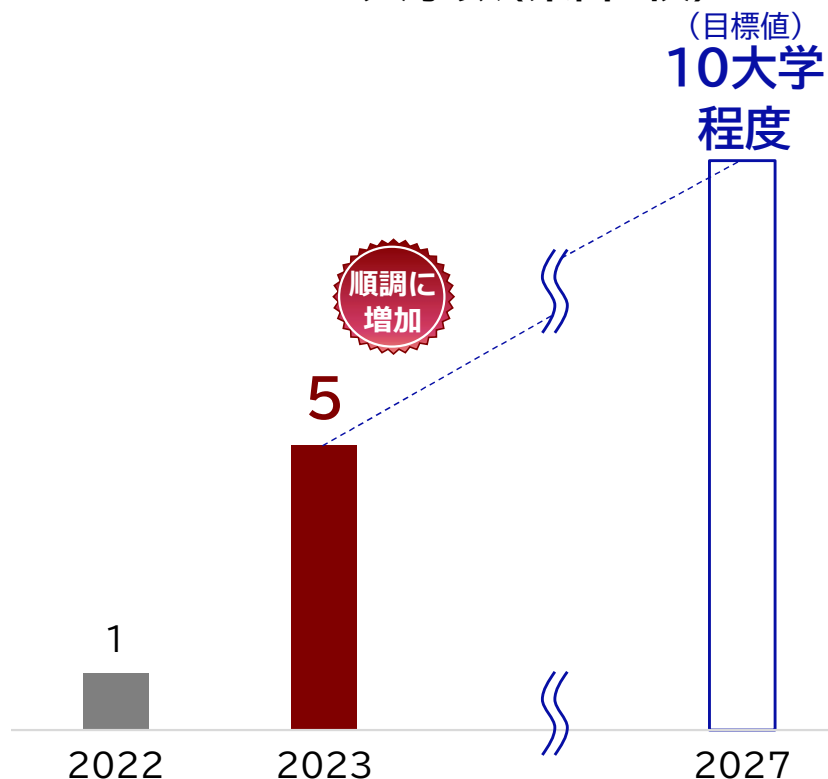
具体取組

若手研究者海外派遣プログラム、
戦略的組織間連携のパートナー大学（GKP）の開拓や国際共同研究実施推進

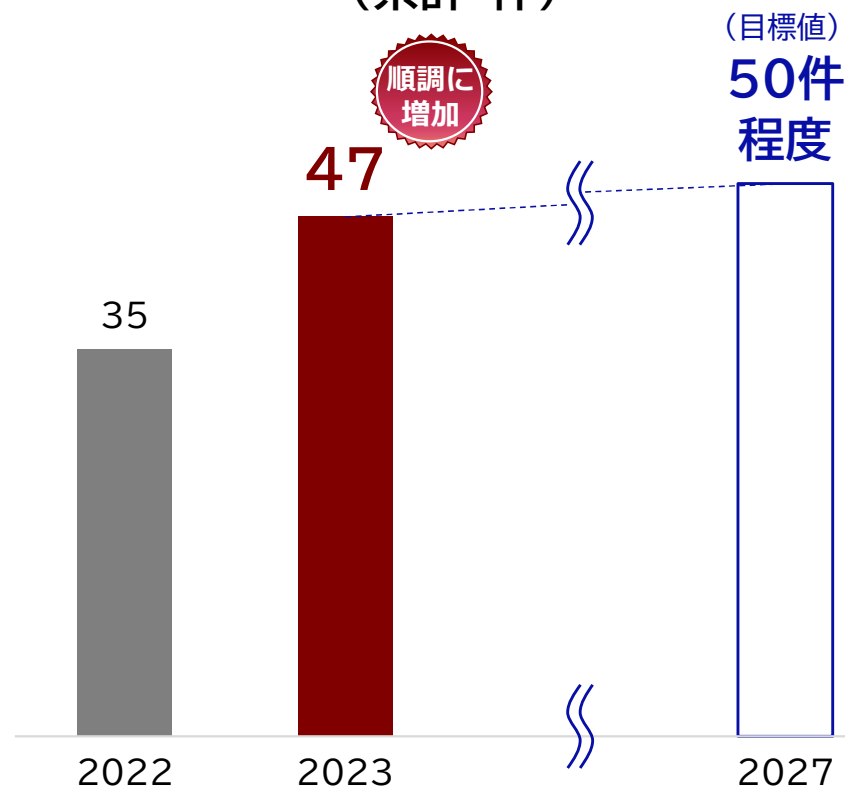
重点研究分野を中心とした戦略的組織間連携のパートナー大学（GKP）を着実に増加させ、アライアンス型国際連携を推進

- ✓ 国際協働ネットワークの拡大により、世界の大学・研究機関とともに生きがいを育む社会の創造を実現する地球規模課題・高度人材育成に挑戦

重点研究分野を中心とした
戦略的組織間連携の
パートナー大学数(累計・校)



戦略的パートナーとの
国際共同研究実施数
(累計・件)



海外キャンパスを活用した高度人材育成と現地の社会課題解決

- ✓ マレーシアに新たにASEANキャンパス・パートナー校を設置し、**計7大学のASEANキャンパス**を設置。現地学生への高度人材育成と現地社会課題への取組を推進
- ✓ **ASEANキャンパス連携大学・機関数18件**を達成



ASEANキャンパスを足掛かりにASEAN地域における教育研究、産学共創等のネットワークを拡張

大阪-マヒドン インターナショナルオフィスの設置

- ✓ 本学と共同研究を中心に50年以上にわたる交流の歴史をもつマヒドン大学と、ダブル・ディグリー・プログラムや短期教育・研究プログラムなど多様な取組を展開
- ✓ タイ国内、ASEAN地域全域における本学の活動をより一層推進



インターナショナルオフィス開所式

ASEANキャンパスとの 国際シンポジウムの開催

- ✓ ASEANキャンパスSDGs共創フォーラムの第1回国際シンポジウム
「International Scientific Symposium of Osaka University ASEAN Campus SDGs Co-Creation Forum」を開催
- ✓ マレーシア、ベトナム、その他アジア各国から延べ約130名が参加



世界中から優秀なグローバル人材の受入れを推進

OUICP※の推進

ASEANキャンパスを活用したハイブリッド型の学生交流プログラムOUICP※をマレーシアにも拡大・推進

※ Osaka University International Certificate Program



OUICPの修了報告会

コロナ禍からの立て直し

- ✓ コロナ禍で中断していたカリフォルニア大学とのフロンティアサマープログラムの受入を再開
- ✓ バーチャル留学（受入）プログラムを春夏及び秋冬学期に実施
- ✓ 「SDGs国際学生交流プログラム」の一環として夏季集中講義とシンポジウムをオンラインで実施

コロナ禍で
中断していた
プログラムを再開し、
徐々に回復

留学生数(名)

(目標値)
3,700名
程度

KPI達成に向けた
今後の展開

- グローバルイニシアティブ機構を改組し、海外拠点を活用した留学生リクルート体制を戦略的に強化
- アドミッション支援の強化による留学生のアクセス向上



構想調書記載概要

構想

- ✓ 将来構想実現に向けた成長サイクルを回すとともに、ステークホルダーとの双方向の対話を促進し、ダイバーシティ&インクルーシブな環境づくりの強化、デジタル・トランスフォーメーション（OUDX）を進め、教育・研究・経営を横断的に支える基盤を構築する。

取組

- ✓ 持続的成長のための自律的経営に向けた運営体制の強化
- ✓ Diversity & Inclusionの推進による研究領域の開拓、女性研究者の育成及び外国人研究者の参画促進
- ✓ コロナ新時代に対応する情報基盤整備（OUDXイニシアティブ）

期待される効果

- ✓ 各系の特色を生かした改革を支援することで、将来の世界トップレベル拠点候補の創出や、分野融合研究による新学術領域の創出につながる。
- ✓ エビデンスデータに基づく大学経営体制や、部局の自律的な研究企画・支援体制の確立が期待でき、自律的経営体制の構築につながる。
- ✓ 多様な人材が集まる環境が構築されることで、優秀な女性研究者、外国人研究者等が増加し、人材流動のハブとして我が国全体の研究力向上に資する。
- ✓ すべての人が本学の活動に参加でき、いつでもどこでも安心して学べる、働ける大学、そしてデジタル変革を世の中とともに進めていく大阪大学の実現につながる。

統括理事による阪大版プロボスト体制と3つの戦略会議（人文社会科学系、理工情報系、医歯薬生命系）体制による横断的連携のさらなる推進

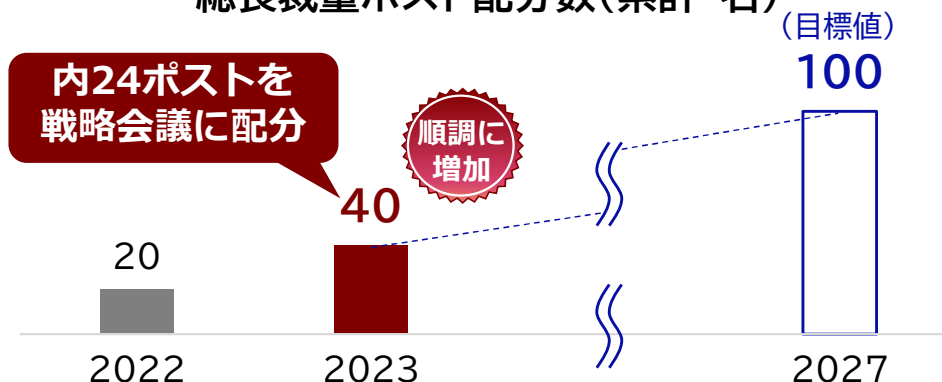
戦略会議単位での 総長裁量ポスト配分による 研究力強化の推進

- ✓ 総長裁量ポスト24ポストを各戦略会議に配分
- ✓ 研究力の強化、将来を見据えた改革に活用
- ✓ 部局を超えて将来真に研究力を強化していくための人事計画をオープンに議論する土壌が定着

両統括理事と各戦略会議との 意思疎通の場での活動促進

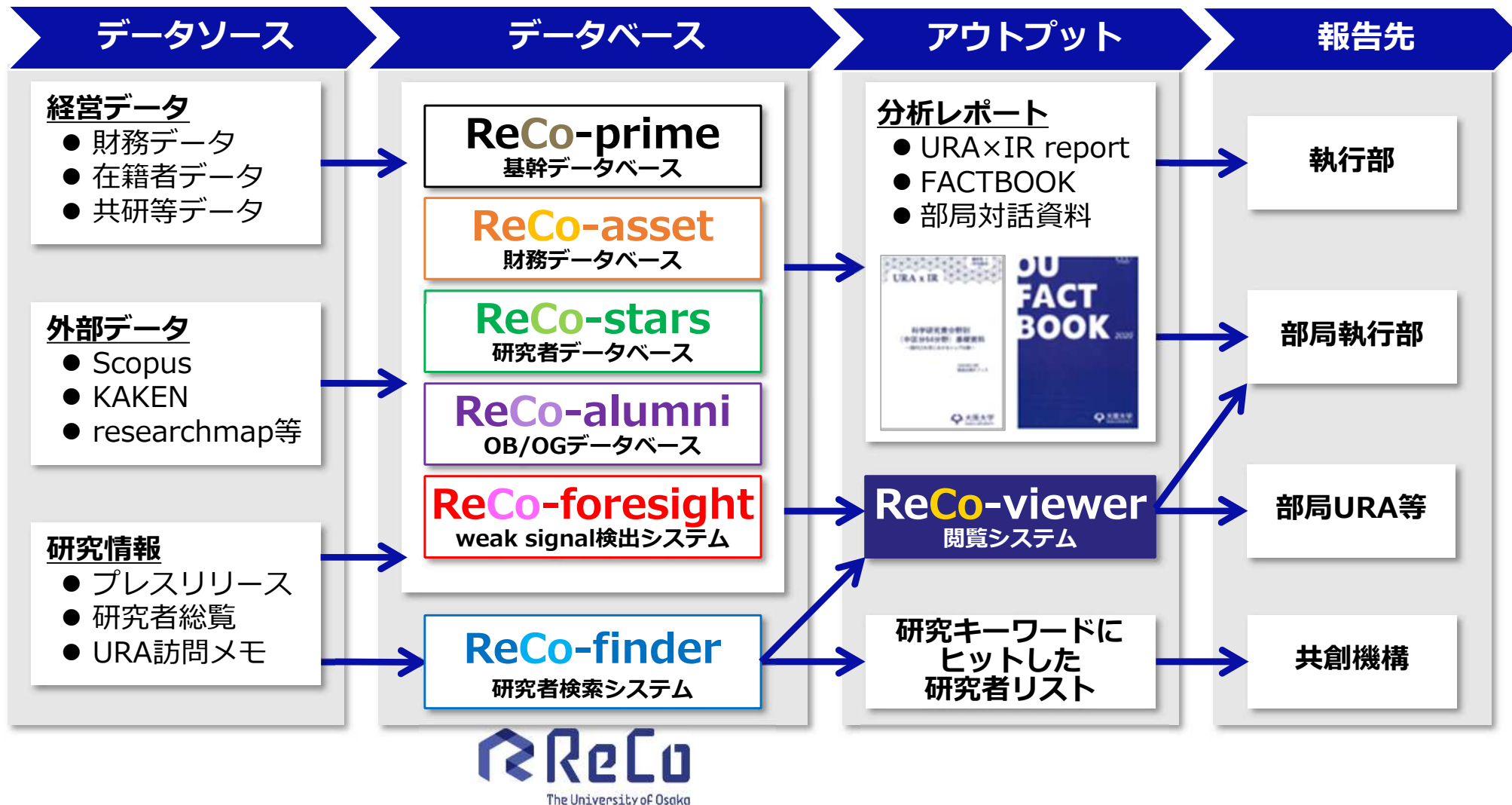
- ✓ 両統括理事と各戦略会議との意思疎通の場となる「各戦略会議間の連携を図るための打合せ」を2022年度、2023年度も毎月実施
- ✓ 国際卓越研究大学構想等の全学改革の議論や各種横断的な重要案件の議論を実施し、横断的な観点から本学の将来構想の策定を推進

総長裁量ポスト配分数(累計・名)



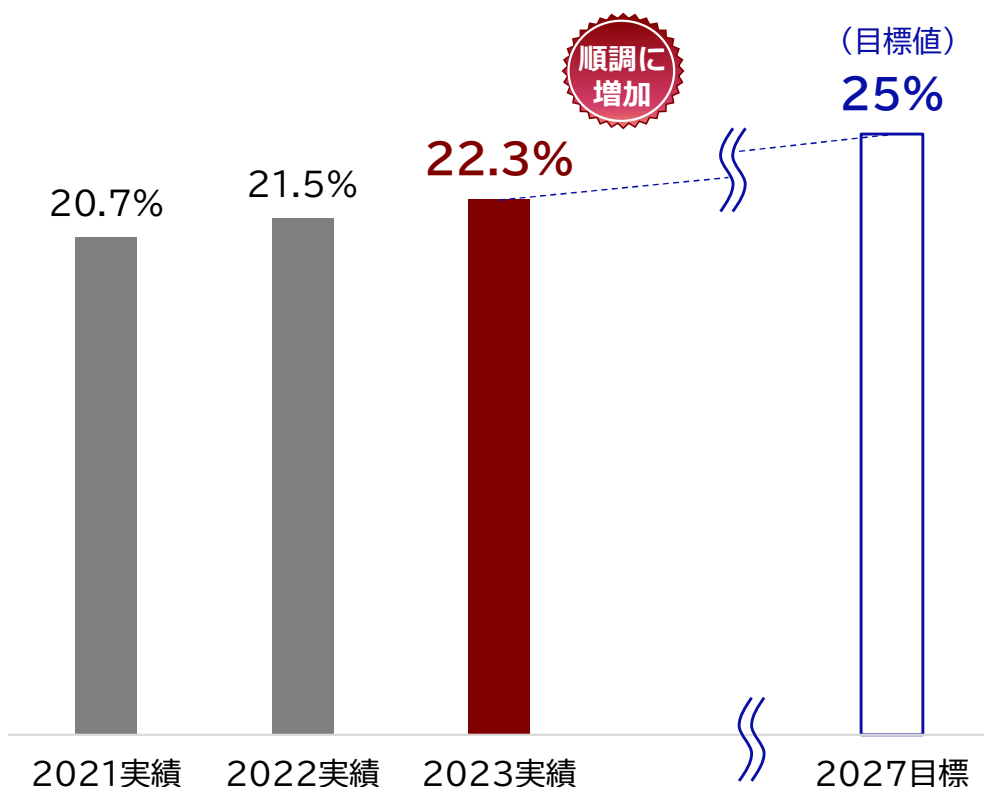
経営企画DXシステム“ReCo”がデータドリブンな意思決定を後押し

- ✓ 学内外に点在する各種データを集約してデータベース化
- ✓ 経営企画オフィスでアルゴリズムを開発し、経営企画DXシステムを本学独自で開発
- ✓ 2020年度より開発に着手、学内試行の上、2024年8月より本格運用開始



他大学を牽引する先進的な取組により、女性研究者比率が向上

女性研究者在職比率



ダイバーシティに関する主な取組

- 総長裁量ポストの配分により優秀な女性研究者、外国人研究者の採用を全学で推進
- ダイバーシティ & インクルージョン (D&I) 推進宣言の公表、D&Iスペースの設置
- 完全個室のベビーケアルーム「mamaro」を設置
- 「PRIDE指標2023」において、5年連続「ゴールド」を受賞（全国の大学で唯一の連続受賞）



文部科学省事業（平成28年度～令和3年度） 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

事後評価
最高のS評価

新たなD&Iの観念を普及させていく～Equity（公正性）を加えたDE&Iへ～

D&I Diversity & Inclusion

DE&I Diversity, Equity & Inclusion

全構成員必修 アンコンシャスバイアス研修

学生及び教職員を対象に、e-learning（オンデマンド型）で実施

女子学生ネットワーク「**asiam**（アザイム）」

小中高校生を対象に、進路相談会や実験教室による理系進学促進と保護者・教員のアンコンシャス・バイアス払拭に貢献

50人に各20万円を授与「入学支援金制度」

理工系学部に入学者の優秀な女子学生を対象に、ダイキン工業株式会社をはじめとした賛同企業とともに令和4年度から実施

DE&Iコンソーシアム・ハンダイの設立

女性研究者循環型育成クラスターを発展的に継続
企業等33社と連携し、全国へと展開

企業等女性研究者のリカレント教育を推進

DE&Iコンソーシアム・ハンダイで実施する、女子学生とともに学ぶリカレント教育（学び直し）

●育休中キャリアアップ支援プログラム ●イノベーション女性活躍推進プログラム



ダイキン工業株式会社
井上 礼之取締役会長
兼グローバルグループ代表執行役員
医薬基盤・健康・栄養研究所 米田 悦啓 理事長と
（平成28年9月1日撮影）



文部科学省事業（平成30年度～令和5年度）

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（全国ネットワーク中核機関（群））」
の幹事機関として全国レベルのダイバーシティ研究環境実現を持続的に推進!!

女性研究者を取り巻く研究環境整備や
研究力向上に取り組む諸機関をつなぎ、
知見・取組の全国的普及・横展開

目標120機関に対し、

参画機関

185

令和6年3月31日現在

●その他：1 機関

●中国・四国ブロック：26 機関

●東海・北陸ブロック：22 機関

●北海道ブロック：6 機関

●東北
ブロック：
24 機関

●関東・甲信越
ブロック：
15 機関

●東京ブロック：37 機関

●近畿ブロック：42 機関

●九州・沖縄ブロック：12 機関

THE UNIVERSITY OF
OSAKA
幹事機関

協働機関
東京農工大学

協働機関

東京農工大学



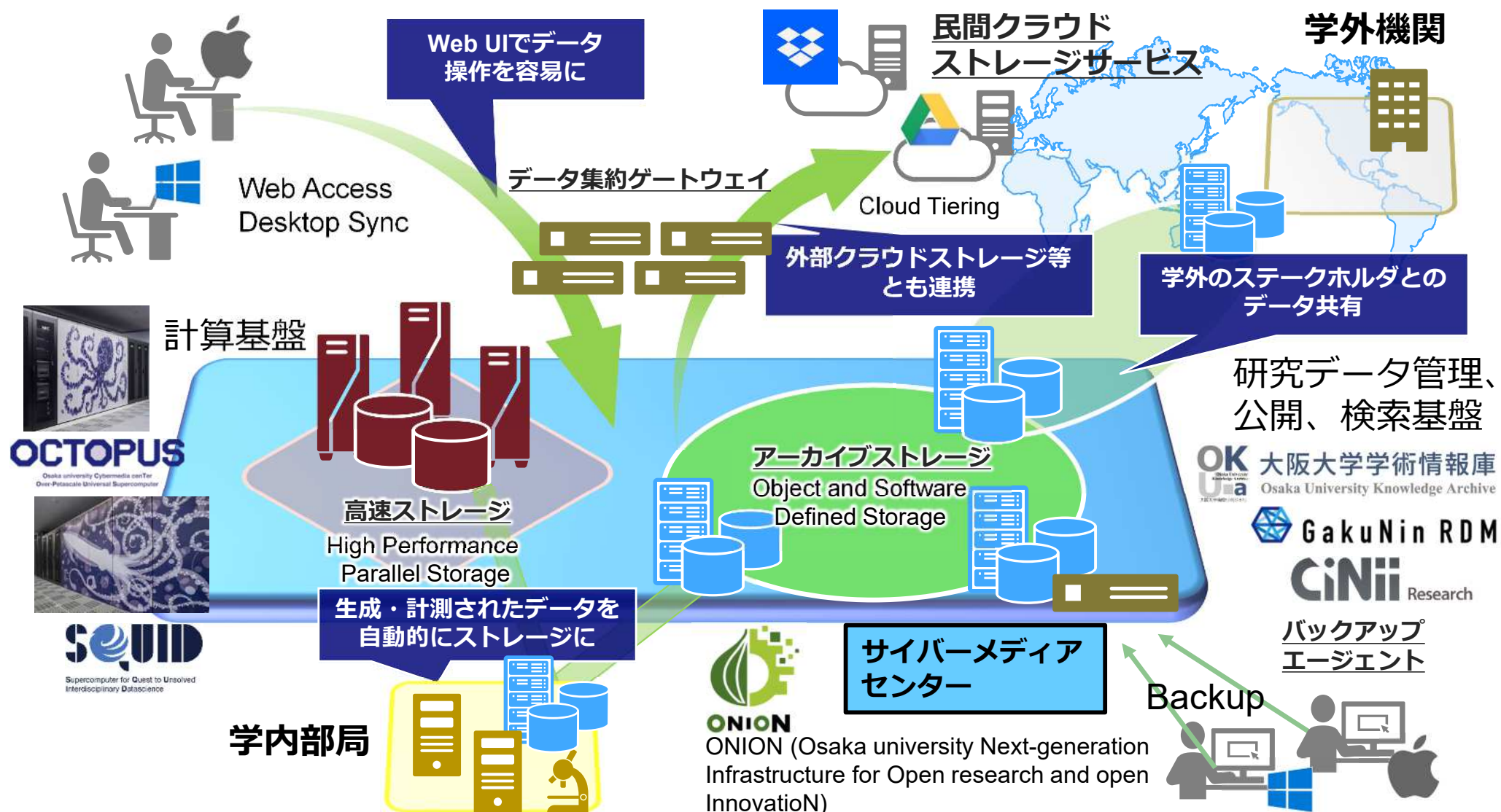
協働機関

日本IBM



研究データ集約基盤の拡充整備

- ✓ **大学債（2022年4月発行）を充当して高速データ通信ネットワークを整備し、本学の研究データ集約基盤 (ONION)にデータを集約・蓄積できるよう拡充整備中**
- ✓ **研究データ集約基盤を介して学内のみならず産業界・社会・全世界とデータ連携を可能にできるよう、国内外の研究者と共有・利活用ができる基盤も構築**



OIDによるスマートキャンパスの実現

- ✓ NECとの共同で大阪大学に関わるすべての構成員の統合ID基盤「OIDシステム」を2023年3月に構築（日本の大学初のデジタルID）し、大学での様々な活動をデジタルツインでサポート
- ✓ OIDシステムでは、在籍中の大阪大学の学生及び教職員約3万人に加え、入学前や卒業後・退職後を含めた一意の生涯ID活用を想定

OU人財データプラットフォーム

教育

入学前から卒業後まで
終身サポート

研究

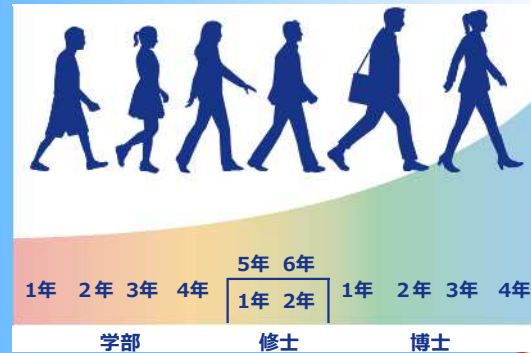
研究活動の
促進・支援・成果訴求

経営

経営基盤強化
人的ネットワーク強化

OUゼロトラスト

従来の境界防御型セキュリティからゼロトラストモデルへと転換することで、あらゆるアクセスに対する全方位制御が可能に



OID

デジタル証明書による
柔軟なサービス連携



顔認証技術を活用した
高付加価値サービスの提供

デジタル学生証
・教職員証
(顔認証)

教職員

関連機関

遠隔授業・テスト

建物・会議室
顔認証入館

大学図書館
自動貸出機

出欠管理

大学生
大学院生

高校生
受験生

OB・OG

近隣住民

共同研究
企業

マイナンバーカードとの連携



Student Life-cycle Support
System empowered by OID
永続的なハンダイ「繋がり」を作る。

構想調書記載概要

構想

- ✓ 共創を中核に据え、未来への先行投資と基盤の深化の両輪を回す経営を確立し、大学の戦略に基づいた最適な資源配分スキームの構築と部局を後押しする活動支援

取組

- ✓ 大学戦略の実現を目指した多様な財源の獲得
- ✓ 多様な財源による資源配分の強化

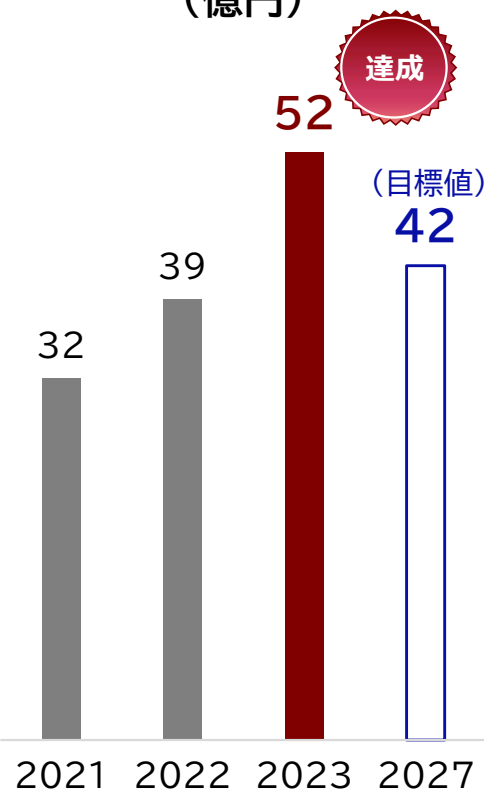
期待される効果

- ✓ 様々な財源を活用することで、多様な基盤的研究の推進に加えて、重要施策への重点投資が可能となる。また、OUマスタープラン2027に掲げる各取組を実行するための基盤を強固なものとし、本学が目指す、生きがいを育む社会の創造の実現に寄与する。

基金の受入れ拡大や大学債の発行により、安定的かつ持続的な財務基盤を強化

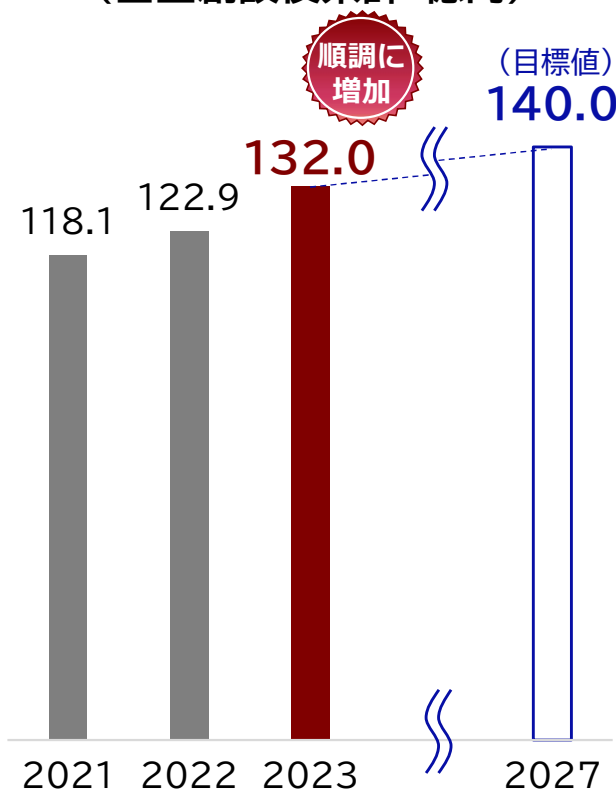
総長裁量経費による 重点投資

総長裁量経費配分額
(億円)



未来基金

未来基金累計受入額
(基金創設後累計・億円)



大学債の発行

- ✓ サステナビリティボンドとしては**国内大学初**となる「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」を2022年4月28日に発行
- ✓ 発行額 = 300億円

キャピタル・アイAwards
“BEST DEALS OF 2022”
(財投機関債等部門) 受賞

- 不足する教育研究・産学連携スペースの確保
- 教員・学生と企業・地域コミュニティ間の交流促進
- オープンサイエンス及びデータ駆動型研究の推進

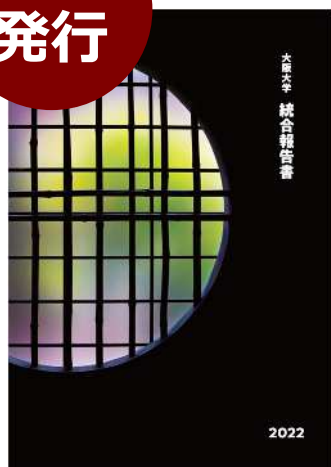
等に活用

ステークホルダーとの対話の促進、ネットワークを強化

統合報告書の発行による対話促進

- ✓ 2021年まで発行してきた「財務レポート」に代えて、2022年度より新たに「統合報告書」を発行
- ✓ 教育研究活動・成果等の非財務情報を加え、ステークホルダーとの対話を促進

2022
発行



2023
発行



卒業生・経済界とのネットワークの強化

- ✓ 大学と卒業生が直接つながる大学から卒業生にむけた情報発信の強化（OU Mail、OU Mail News、OU Style）
- ✓ 「大阪大学ホームカミングデイ」をはじめとした卒業生同士のコミュニティを醸成する卒業生イベントの実施
- ✓ 経済界と本学との対話の場である「経済界と大学との連携の場」を実施
- ✓ 20を超える企業の会長、社長、取締役等と「未来を担う人材」をテーマに議論



多様な財源による柔軟な資源配分の仕組みを構築

OUマスタープラン実現加速事業

- 各部局の強み・特色を伸長させるための新たな資源配分として、**OUマスタープラン実現加速事業**を構築
- 部局からの事業提案に対して**資源配分を実施（総長裁量経費2023年度5.6億円、2024年度9.3億円の支援を実施）**

種目

部局運営 活性化事業	部局が強み・特色を発揮してOUマスタープラン並びに各種評価指標を達成するための事業 タイプA 最長3年間 2,000～5,000万円/年 タイプB 最長3年間 500～1,000万円/年 タイプC 最長3年間 ～500万円/年
---------------	--

重点推進事業 社会的インパクトを生み出すことができる事業
第4期中期目標期間内で最長5年間 最大1億円

<採択事業例>

人間科学研究科（2023～2027年度）

誰もが生きがいを育むことのできる共生社会をめざして：

OU版社学共創エコシステムの構築

微生物病研究所（2023～2027年度）

先制医療がん老化研究拠点（プレメド拠点）の構築

サイバーメディアセンター（2024～2027年度）

OUIDプロジェクト OU人財データプラットフォーム展開
（教育DX・研究DX・経営DX）

Industry on Campusによる財源の多様化

- 共同研究講座、協働研究所の設置数：**119件**
⇒若手育成等の面から大学運営に大きく寄与
- 1,000万円以上の大型共同研究費受入：**83.1億円 全国第2位※**
⇒産学官連携推進活動経費は全学の共創活動等の環境整備に活用
⇒「生きがいを育む社会の創造」の実現に向けた活動への投資へ寄与

（出典）

※経済産業省「大学ファクトブック2024」にて全国第2位

ポイント制による新たな人員管理

- 2024年4月より柔軟で選択肢の幅がある人員管理制度を導入
- 研究の強みを最大限に生かし、流動的かつ効果的に教員・研究員人材の配置に即応できるようにすることで、研究力強化へつなげる。

大阪大学におけるグローバル戦略と強力なガバナンス体制

- ✓ 2024年度現在、6名の国際担当理事を配置（国立大学最多）し、世界に伍するためのグローバル戦略の実行を強力にグリップ



統括理事、教育担当

田中 敏宏



統括理事、国際（共創）担当

金田 安史



国際（研究）担当

尾上 孝雄



国際（組織）担当

田中 学



国際（教育）担当

山本 ベバリー・アン



グローバル連携担当

深瀬 浩一

中長期の大学経営指針「OUマスタープラン」のもと、教育・研究・共創それぞれの活動に横串を指す形で、
グローバル戦略実現のための実行計画を独自に展開

OUマスタープラン2027における重点戦略

教育

優秀な留学生の受入れと
本学学生の海外派遣を通じた
Diversityの向上と
グローバル人材の育成

- 海外キャンパス等を活用した新たなプログラムの展開
- 多様な留学生リクルート活動の展開
- 留学経験者のネットワーク化

研究

卓越した学術研究の
グローバル展開

- 特定分野における戦略的組織間連携（GKP）による卓越した研究拠点形成
- 海外の有力大学等に若手研究者を中長期海外派遣できる環境の整備（グローバル若手研究者育成制度）
- 海外への戦略的な情報発信の強化

共創

グローバル連携による
社会課題への挑戦

- 海外大学との国際連携によるグローバル課題解決の推進
- ASEANキャンパスをハブとしたグローバル連携ネットワークの構築
- ASEAN地域における高度グローバル人材の育成

大阪大学独自の自律的な内部質保証の仕組み

- ✓ 大阪大学独自の将来構想「OUマスタープラン2027」の達成に向けて、2022年度より各年度の実施計画「OUアクションプラン」を作成し、自己点検・評価を行う仕組みを整備
→各組織が自律的にPDCAサイクルを回すことができる体制を構築
- ✓ 指定国立大学法人構想は、OUアクションプランに反映されており、その取組の進捗・KPIについて一体でモニタリングを実施



執行部のダイバーシティ

- ✓ 女性役員比率35.7%（14名中5名）、旧帝国大学唯一の常勤外国人理事を登用し、「生きがいを育む社会の創造へ」改革を推進

※ 第4期中期目標期間内に任命した理事については任命年度を記載

ダイバーシティを確保した執行体制



西尾 章治郎 総長



金田 安史

理事・副学長

統括理事
(大学経営、OU
構想策定担当)

- 共創、国際（共創）、病院担当



田中 敏宏

理事・副学長

統括理事
(教育研究、
内部統制担当)

- 教育、入試、学生支援担当



尾上 孝雄

理事・副学長

- 研究、国際（研究）、情報推進、図書館担当



2023
年度
任命

福田 祐一

理事・副学長

- 財務、質保証推進、SDGs担当



2023
年度
任命

田中 学

理事・副学長

- 施設、国際（組織）担当



水島 郁子

理事・副学長

- 人事労務、ハラスメント対策担当



2023
年度
任命

山本 ベバリー・アン

理事・副学長

- 国際（教育）担当



2024
年度
任命

深瀬 浩一

理事・副学長

- グローバル連携、万博担当



2023
年度
任命

井上 恵嗣

理事・副学長

- ダイバーシティ&インクルージョン、広報、リスク管理、事務組織担当



2022
年度
任命

武内 紀子

理事(非常勤)

- 経営改革担当



2023
年度
任命

泉谷 八千代

理事(非常勤)

- 社会学アウトリーチ、ブランディング担当



木下 健久

監事(常勤)



櫻井 美幸

監事(非常勤)

その他特記事項（今後の展開等について）

1

研究力強化

大阪大学・日本財団感染症センター竣工に向けた運営体制整備と拠点のプラットフォーム化
情報イノベーション機構及びD3 センターの設置

2

人材育成・獲得

教育成果を可視化し、入学前から卒業後までつながり続けるSLiCSの構築

3

社会との共創

知財戦略とスタートアップエコシステムの強化

4

国際協働

海外拠点を中心とした国際共同研究ネットワークの形成、留学生リクルートの強化

5

ガバナンス強化

全学的財務マネジメント及び資源再配分を可能とする体制の整備

6

財務基盤強化

「生きがいを育む社会」の実現への共感による寄附募集拡大

【参考】指定国立大学法人構想に係る情報発信を行っている大学ウェブサイト

①大阪大学 指定国立大学法人（※「取組の進捗状況」にて各年度の進捗状況を公表）

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/strategy/designated-national-univ/top>

②大阪大学 内部質保証（※「OUアクションプラン（計画、自己点検・評価及び検証）」にて各年度の自己点検・検証結果を公表）

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/shituho/bukyokutassei>

社会の新しいニーズに対応した優秀な人材の育成を図る。

